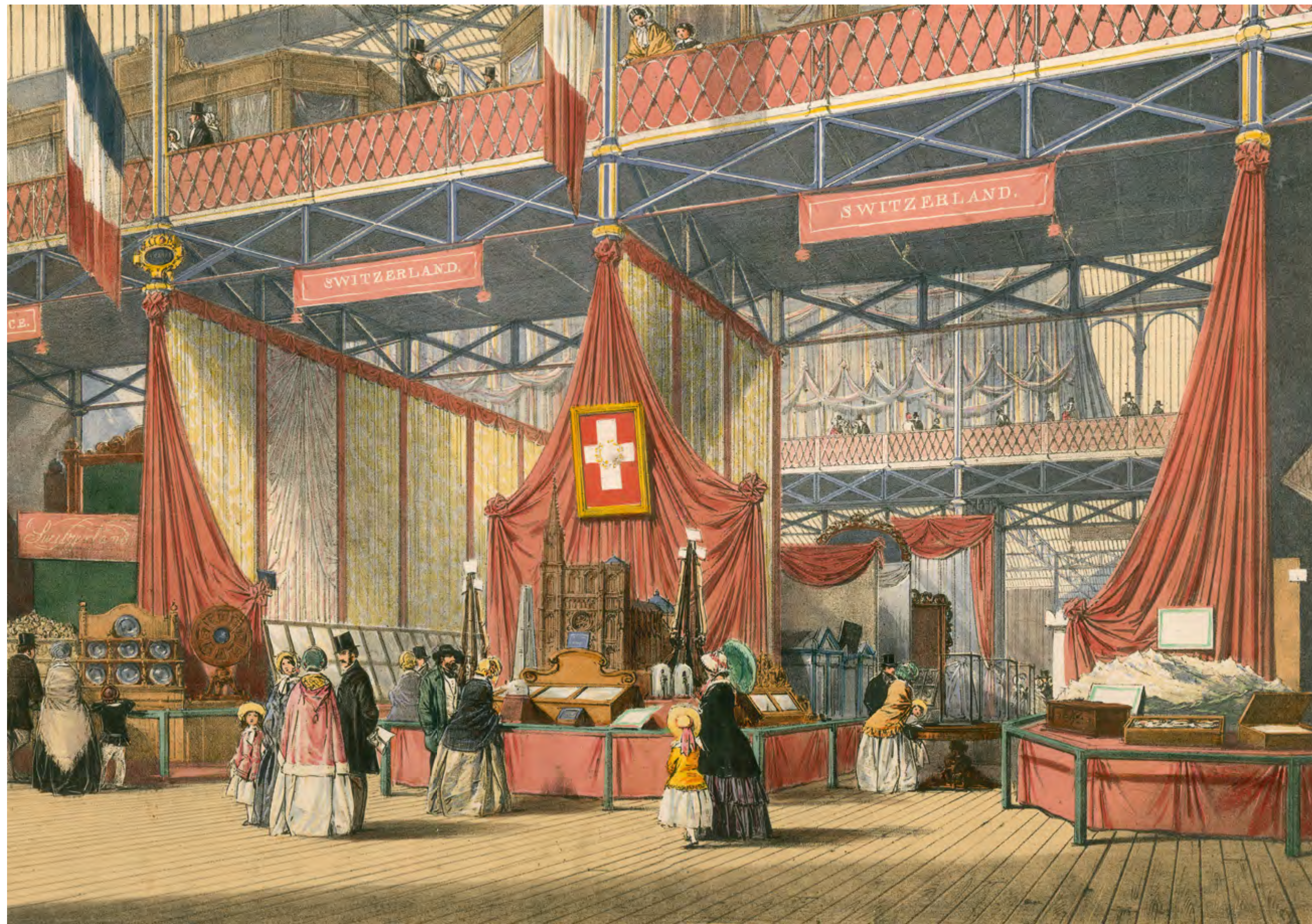


国際博覧会の時代

19世紀という未曾有の産業発展期に世界主要都市で開催された国際博覧会は、技術革新の担い手と産業資本家が一堂に会することを可能にした。

産業革命は、世界を巻き込んだ歴史的な潮流の中で、最も顕著なもののひとつである。18世紀末に始まった産業革命はヨーロッパとアメリカ合衆国において急速に広まり、絶え間なく成長を続ける大都会に何百万という労働者を送り込み、輸送、生産性、通信における急激な発展をもたらした。近代世界の礎を築いたのである。フランスにおいては、1789年の革命により工業化が加速された。フランス革命の遺産のひとつは、全国の製造業者を一堂に集める、政府支援による産業博覧会であった。1844年、パリにおいて産業博覧会が盛大に催された。シャンゼレ通りには広大な仮設会場が設けられた。アントワーヌ・ノルベール・ド・パテックが、ジャン・アドリアン・フィリップの発明した画期的な鍵なし竜頭巻上げ・時刻合わせ機構のことを知るのには、この時である。この2人は産業博覧会で実際に会ったわけではなかったが、この出来事をきっかけとしてパテック社 (Patek & Cie) が設立されたのである。パテックは、創業間もない当時から外国市場に目を向け、自社の海外における販売をいかにして促進するかに知恵を絞った。ポーランド移民パテックは、スイスに安住の地を見出すまでにヨーロッパ

各地を放浪した経験から、ただひとつの市場に依存することの危険をよく知っていた。若いパテックの祖国の独立を願う気持ちは一層強かったが、実業家としての彼は、1848年にヨーロッパ全域に吹き荒れた暴動の嵐が王政を倒し、高級品の国際取引が崩壊することへの危惧を強く感じていたに違いない。幸いにして、富と社会的安定により、商業活動を継続していくことの可能な国がひとつあった。イギリスである。ヴィクトリア女王の夫君アルバート公は、いとこのプロイセン王にこう書き送っている。「わが国では暴動も暗殺も恐れる必要がない。世界最大の経済規模を誇り、ロンドンという世界最大の都市を持つイギリスは、明らかに注目すべき市場であった。それゆえアルバート公が、おそらく1844年のパリ産業博覧会の成功に触発されて、1851年に全世界の産業成果を展示する万国博覧会をロンドンで開催すると宣言するや、パテックは直ちにこれに出展するための準備を開始したのであった。ロンドンの万国博覧会は19世紀の要となる出来事であった。これをきっかけとして国際博覧会が世界各地で開催されるようになったのである。ハイダバードの南の境界沿いに、鉄とガラ





(上) 1851年のロンドン万国博覧会においてヴィクトリア女王が購入したパテック・フィリップ・タイムピース。パテックとフィリップは、出逢うことはなかったが、いずれもバリ産業博覧会(下)を訪れている。
[前見開きページ] カラー・リトグラフによるスイス展示ブース。
[次ページ] クリスタル・パレスの館内(1895年頃)。
[次見開きページ] 初期のカラー銅版画によるクリスタル・パレス全景(1860年)。

ス製の幅560メートル、高さは成長した樹木を収めるのに十分なほどの巨大なプレハブ構造の建物が造られ、クリスタル・パレス(水晶宮)と名づけられた。建物の半分には、巨大な蒸気機関から最初期の自転車、ノッティンガム・レース、ピンクのガラスで造られた高さ8メートル以上の噴水に至る、イギリス国産品が展示された。

建物の残り半分には、中央翼廊の周囲に他の参加諸国の展示スペースが配置された。公式ガイドブックはいう。「展示スペースの配置は、参加国の赤道からの距離に応じたものであった。熱帯諸国の産品は中央翼廊から近い位置に、北方諸国のそれは建物の壁近くに配置された」。博覧会のハイライトのひとつであった、当時世界最大といわれたコーヒ・ヌール・ダイヤモンドを見ようと、連日、数百人の公衆が列をなした。しかし金色の籠に収められたダイヤモンドは輝きがなく、見学者を大いに失望させたのであった。

一方、中央翼廊の南側にあったスイス製時計の展示スペースにはパテック・フィリップ製品が輝かしく陳列され、注目を集めた。1851年5月1日から10月11日の開催期間中、当時のイギリスの全人口の3分の1にあたる600万人以上がクリスタル・パレスを訪れた。ジャン・アドリアン・フィリップは記している。「懐中時計に関する限り、当社の展示は、万国博覧会の全展示中、疑いもなく最も大規模かつ魅力的なものであった。そればかりかパテック氏は、ロンドンの最も有力な時計製作者のひとり、デント氏からきわめて喜ばしい賛辞を受けた。氏は、当社の展示を見て「ミスター・パテック、あなたは時計製作者の王者だ」との感想を述べたのである」。しかし真のお墨付きは、8月にヴィクトリア女王がスイス展示スペースを訪れ、淡青色の七宝で装飾されたパテック・フィリップのペンダント・ウォッチ(パテック・フィリップ・ミュージアム所蔵)を購入し、その後さらにアルバート公のためにゴールドのハンタータイプ(両蓋)クロノメーターを発注したことに由来する。これが今日まで続くパテック・フィリップ







1853年のニューヨーク万国博覧会会場となったマンハッタン中心部のクリスタル・パレス(前ページ、および当ページ下)は、1858年に焼失した。ニューヨーク万国博覧会は、博覧会の黄金

時代と呼ばれた19世紀末~20世紀初頭にアメリカで開催された多数の博覧会の最初のもの。1893年のシカゴ博覧会に出展したパテック フィリップは審査委員も兼任した(左)。

の王室との関係の発端であった。しかし舞台裏を見ると、スイスの展示スペースは完璧というわけにはいかなかった。さまざまなメーカーによる数百個の時計がただひとつの巨大なショーケースに詰め込まれ、各々の時計は番号札によって参照するようになっていたが、誰ひとりこれを厳格に管理することには思い至らなかった。パテックは回想している。「わたしはコラドン教授がしつこく番号札を置き直すところを数え切れないほど目撃している。しかしその努力も空しく、床からの振動と通行する人々が与える衝撃によって15分後には以前と変わらぬ乱雑さに逆戻りしているのだった」。

ロンドン万国博覧会は経済効果、入場者数、そしてイギリスの富と力を世界に示すという意味において目覚ましい成功を収めた。このため他の国々も先を争って同様の博覧会の開催を計画するに至った。その先陣を切ったのは、すでに新興超大国を自認し、製造業の巨大なスケールにおいてイギリスを凌駕していたアメリカ合衆国であった。1853年7月14日、ニューヨークのレゼボア・スクエア(今日のブライアント・パーク)において万国博覧会が開催された。ロンドンに倣ったクリスタル・パレスが建設され、高さ90メートル以上の展望塔も加えられた。ニューヨーク万国博覧会は、ロンドン万国博覧会ほど

の輝かしい成功を収めることはできなかった(入場者数は約100万人、収支は30万ドルの赤字であった)。パテック フィリップは、ニューヨーク万国博覧会を皮切りに1853年から1915年にかけて5回にわたりアメリカ合衆国における国際博覧会に参加し、アメリカにおける名声を確立した。またニューヨーク万国博覧会が契機となり、その数週間後、パテックは初のアメリカ合衆国への旅行に出発する。しかしこの旅行は波瀾に満ちたものであった。大西洋横断は、冬季の悪天候により、通常10日間のところが14日間もかかった。またニューヨーク第一夜にはホテルの彼の部屋に強盗が入り、トランクに入れておいたすべての貴重品を奪われたのである。

パテック フィリップ(1851年にPatek, Philippe & Coと改称)はニューヨーク万国博覧会で銀賞を獲得し、ニューヨークの高級宝飾店ティファニーとの取引関係を強化した。ティファニーはその後、アメリカにおけるパテック フィリップの最も重要なかつ長期にわたるパートナーとなった。パテック フィリップは1844年から1923年の間にさまざまな国際博覧会において合計20個の金メダルを獲得している。これらのメダルは当時、ジュネーブのパテック フィリップ本店に誇らしく展示されていた。



その後、国際博覧会はさらに盛大になり、その名声はさらに確固たるものとなっていった。しかしパテックは、新市場開拓の手段としての国際博覧会はその絶頂期を過ぎたことをよく理解していた。彼が没した1877年当時、マスマディアはすでに情報の伝播を開始しており、どれほど大規模な博覧会でも不可能なほどの、大きな市場をターゲットとした広告宣伝が始まっていたのである。博覧会の金メダルは、店内に飾る限りにおいて抜群の効果を持つであろう。しかしパテック フィリップは1873年以降、これに代わってジュネーブ天文台計時精度コンクールを持つプレステージに漸次、力点を移して



Interior View of the New York Crystal Palace for the Exhibition of the Industry of all Nations.

TAKEN ON THE FIRST OF DECEMBER 1853.

View of the Crystal Palace, as it appeared in New York, on the 1st day of December 1853. The building was erected on the site of the old City Hall, and was the largest building ever erected in the United States. It was the first building to be constructed of iron and glass, and was the first building to be constructed of iron and glass in America. The building was the first building to be constructed of iron and glass in America. The building was the first building to be constructed of iron and glass in America.

DELEGATES:

LEONARD STUART, -Great Britain.	ALFRED FELL, -Germany.	ERBERT & ANDERSON, -France.	WILHELM STRASSER, -Prussia.	JOHN BROWN, -United States.
S. C. ANDERSON, -France.	ALFRED FELL, -Germany.	ERBERT & ANDERSON, -France.	WILHELM STRASSER, -Prussia.	JOHN BROWN, -United States.
S. C. ANDERSON, -France.	ALFRED FELL, -Germany.	ERBERT & ANDERSON, -France.	WILHELM STRASSER, -Prussia.	JOHN BROWN, -United States.

New York, Published by GRIFFIN & BATES, 1853.

PHOTOGRAPHS: THE BRIDGEMAN ART LIBRARY; THE NEW YORK PUBLIC LIBRARY; ARCH-IMAGES; THE BEINECKE RARE BOOK & MANUSCRIPT LIBRARY.